

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第10回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第10回〕
2. 開催日時 令和2年6月26日（金） 19時00分から20時45分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 出席者氏名  
【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略  
大蔵秋利、高坂義宏、西條和男、饗庭光雄、大澤今男、清水正育、唐澤功、下澤洋貞、  
米山俊孝、坂本勇治、寺沢秀文、松下敏章、熊岡正志、小澤文人、中島芳夫、北林誠、  
小林幸彦、松浦善文、米山義盛、松下正博、田中真喜子  
（欠席者：橋爪和也、宮下彰、井上美智恵）  
【JR東海】  
中央新幹線建設部 名古屋建設部 古谷担当部長  
中央新幹線 長野工事事務所 平永所長、村井係長、工藤主席  
// 大鹿分室 太田垣分室長、三品係長  
【長野県】  
飯田建設事務所リニア整備推進事務所 折井調整課長、斉藤課長補佐、平坦当係長  
【飯田市】  
リニア推進部 細田部長、下平リニア推進課長  
【喬木村】  
高速交通対策課 井澤課長、吉川計画調整係長、白井主査  
【役場】  
宮下町長、久保副町長、小木曾課長、佐々木係長、大澤主査、  
小沢課長、田中課長、米山(清)課長、池上課長、矢沢課長、塩倉課長、加山局長
5. 議題（公開）
  - （1）トンネル発生土を活用した飯田市代替地整備の状況について
  - （2）喬木村代替地整備に伴うトンネル発生土の活用について
  - （3）前河原道路新設事業について
  - （4）生田地区における発生土の活用について
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）  
—
7. 傍聴人の数  
12人
8. 会議資料の名称
  - ・会議次第・資料、別紙資料（町作成）
  - ・別冊資料（飯田市作成）
  - ・別冊資料（喬木村作成）

## 9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 会議事項  
上記のとおり
- (4) その他
- (5) 閉会

## 10. 会議録

### (1) あいさつ

(米山委員長)

皆さん大変お疲れの中、夜分に松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会にお集まりいただきました。私の方で議事を進行させていただきますが、スムーズに議事が進行しますことを願います。

(宮下町長)

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。日頃は、松川町政に対し、様々な立場でご理解、ご協力を頂き、重ねて感謝申し上げます。JR東海、長野県、飯田市、喬木村の皆様、忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

さて、昨年度末より新型コロナウイルスの話題ばかりが続いており、会議という会議が滞っており当委員会もしばらく開催ができませんでした。文章のやり取りではなく、皆様と顔を合わせながら会議をする事の大切さを改めて痛感しています。感染症予防対策を取りながら、あまり長時間になりすぎないように注意して会議を行いたいと思います。

本日の議題は、大きく3点です。

最初に飯田市で行われている事業、また、喬木村でこれから行われる事業に対しての発生土の運搬について。後ほどご説明頂きますのでよろしく願います。

次に、松川町内で計画されている前河原道路新設事業について。次第に計画が形になってまいりましたので、経過と今後の予定についてご説明させていただきます。

最後に、生田地区における発生土の活用について。これまでの間調整を続けていますが、なかなか皆様にお示しできるような形になっていないのが現状です。今後も町が主体となって話し合いを進めていきます。

また、他の市町村でも次第に事業が進んできています。長野県で工事を進めて頂いている宮ヶ瀬橋も形が見えてきました。様々な条件が整いつつある今、松川町内でも発生土の活用についてさらに話を進めるため、改めて提案をさせていただきますのでよろしく願います。

(JR東海/古谷担当部長)

新型コロナウイルスですが、まだまだ余談を許さない状況の中、JRの社員、業者の職員、作業員は感染予防対策をしっかりと取りながら工事を着実に進めさせていただいています。本日は、JRの方からお話する事柄は特段ありませんが、こういった委員会で皆様、地区の代表の方、各種団体の代表の方と意見交換をさせていただき、色々なご意見を聞いてコミュニケーションを図っていくということは大切で、非常に有難いことだと思っていますので、引き続き皆様とコミュニケーションを図りながら事業を推進して参りたいと思いますので、よろしく願います。

(長野県/折井課長)

リニア中央新幹線の長野県内全体の工事の進捗状況ですが、県内延長約 53 キロのうち約 45 キロの 85%が工事の契約済みと聞いています。報道等では未着工となっている静岡県の関係が取り沙汰されているところですが、長野県としては、2027 年の開業に向けて沿線の市町村様と共にリニアの沿線工事の調整業務、関連の道路の周辺整備に取り組んでまいります。トンネル発生土の運搬に関するお願いや、松川町内における発生土の活用についてご説明があるという風に伺っています。引き続きご支援ご協力をよろしくお願い致します。

(飯田市/細田部長)

1月29日の第9回の本対策委員会にてお願いをさせていただき、4月27日及び28日には、上新井区の皆様に対してご説明する中で、この事業を5月11日から進めています。本日は、この事業に関して期間の延長をお願いできないか、お願いに上がりました。この件については、喬木村との事業の関連もあり、喬木村との事業の調整を行う中で本日説明をさせていただき、ご意見等を賜れば大変有難いと思いますので、よろしくお願い致します。

(喬木村/井澤課長)

皆様ご存知のとおり、喬木村はリニア中央新幹線のルート上に位置しており、村の北西部阿島の北地区を通過することになっている。通過ルートは延長約2キロになり、住宅や企業が移転の対象となります。

今回移転を予定されている企業については、村で工場を営まれてから30年以上経過しており、大変長いお付き合いをしている。村でも、この様なご縁を大切にしたいため新たに伊久間地区に工場団地を造成し、そちらに移転していただくことと事業を進めている。本日は、その工場団地の造成盛り土についてリニア発生土を活用したいため、運搬ルートに当たる松川町の皆様にご説明をさせていただきたい。大変ご迷惑をお掛けしますが、喬木村の事情等を考慮いただき、ご協力をお願いします。

## (2) 会議事項

(1) トンネル発生土を活用した飯田市代替地整備の状況について

〔飯田市/下平課長より説明〕

(2) 喬木村代替地整備に伴うトンネル発生土の活用について

〔喬木村/吉川係長より説明〕

〔合わせて質疑応答〕

(北林委員)

運搬の時間帯が子供たちの下校時刻と重なると思う。計算したところ4分に1台の割合でダンプが通ることになる。松川町の通学路を見てみると、拡幅工事が済んでいない所もあり、子供の安全が守られていない所があると思う。何かあった際は喬木村の方に連絡くださいといった話だと思うが、それで全て済む話と理解してよいのでしょうか。道が少し狭いので何か対策しなければいけないという話も、喬木村さんが受けるという話でよろしいでしょうか。

(喬木村/井澤課長)

地元の松川町と協議する中で進めて参りたいと思います。頂いたご意見を持ち帰り、改めて説明をさせていただきたい。

(松川町/小木曾課長)

喬木村からの発言のとおり、一緒に考えて参りたい。

(北林委員)

いくつも窓口があると有耶無耶なうちに終わってしまうこともあると思う。このことに関して責任を持つところを設け、目に見えるようなことを行っていただきたい。

(松川町/小木曾課長)

町の関係でありますので、まちづくり政策課の方にご連絡頂きたいと思う。

(北林委員)

6月24日に行われた県道22号線死亡事故の現地診断の件で、飯田建設事務所に対して不信感を持っている。真剣に考える態度ではなかった。しっかりとした態度を見せていただきたい。本当に人の命がかかっているのです、よろしくお願ひしたい。

(長野県/折井課長)

当日は、私達の維持管理の職員が立ち会っているかと思う。聞くところによると、外側線や土砂撤去の関係等の要望があったと聞いている。その対応をするということで聞いているが、それ以外のことでしょうか。

(北林委員)

その様に対応するという話は聞いていませんが、生東区長がいますので、区長の方から話をお願ひしたい。

(下澤委員)

北林さんと同じ立ち会いに同席した。その内容というのは、現地はさほど問題のあるカーブではなく、減速レーンを付けるほどの幅員もない。さして問題のある現場ではないという様な発言をいただいている。

(北林委員)

その時の担当の方は、急なカーブではありますが見通しが悪いとは言えないという話をされた。警察の方も区長も見通しが悪いと言われており、個人的な意見としても飯田建設事務所という名前で出て来た以上は、その人の意見が飯田建設事務所の意見だと思う。その様な態度を見せられると、今言った様に子供たちが危ないから何とかしてくれないかという意見を持っていったとしても、対応してくれるのだろうか思いますし、正直不安がありますので、その辺りをクリアにしてください。

(長野県/折井課長)

職員の発言に対しましては大変申し訳ない。死亡事故が起きている現場であり、そこには大きな原因があると思っている。例えば、カーブミラーを付ける等の対応ができると思う。所に持ち帰らせていただき、安全対策については検討させていただきます。大変申し訳ございませんでした。

(北林委員)

どの様にすればクリアにしてもらえるか。

(宮下町長)

県道22号線の話が24日にあり、拡幅だとやはり時間がかかるため、外側線と土砂撤去のお願ひを、次の日の朝飯田建設事務所にした。同様に、今後運搬をする中で、ここが狭くて危ないという話の中では、では明日道路を広げましょうという訳にはいかない。対応していただく形を取るための窓口は松川町がなり、できる安全対策について町から飯田建設事務所にお願ひし、対応させていただきます。

(北林委員)

どの様な道筋で、どこがやりますということをはっきりさせていただきたい。

(宮下町長)

先ほどの話は県道でしたので飯田建設事務所をお願いした。管轄のところとすぐに相談をしながら、早く対応できるものから対応させていただきたい。

(大澤委員)

飯田市の説明の中で、現在運んでいる土砂の比重が重く、それが結果的に運搬台数の増加に繋がっていると説明があった。喬木村の計上している台数も、比重を加味しての台数と考えてよいのか。今運んでいる土砂の比重が大きいのか、それともこれからずっと土砂の比重が大きいのかお聞きしたい。

(喬木村/井澤課長)

飯田市の実績を加味した台数を計上させていただいている。

(飯田市/細田部長)

今運んでいる土砂は硬く、重いものになっている。今後も今の重さが基本となってくるのではないかと考えている。

(西條委員)

右折専用レーンを設けるなど道路の拡幅は行うのか。朝、夕の通勤時間帯で混んでしまうと思う。そこへ何百台というダンプが通るとダンパー台の横を通り抜けることは難しくなると思われる。そこについては解決済みかお聞きしたい。

(松川町/佐々木係長)

今後JR東海の方では、大鹿村に仮置きされている土を運び出すということで話を承っている。町内を走るルートについては、改めてその際にご説明させていただきたいと考えているが、この道路は狭いのではといった要望は町からもJR東海へ出させていただきたいと思っている。道路にも管理する担当部署があり、それぞれの担当部署と協議する中で今後最善となる改良をする様に検討して参りたいと思いますので、よろしくお聞きしたい。

(西條委員)

地元は当然協力する気はあると思うが、そのために道が混むことが想定されるため、ぜひベストな体制でいければと思っているので、よろしくお聞きしたい。

(米山義盛委員)

大鹿村から出てくる土砂の安全性は担保されているのか、お聞きしたい。

(JR東海/平永所長)

現在、飯田市の公共事業で活用いただいている土は、毎日自然由来の重金属等の含有率が基準を上回っていないかチェックを行っており、基準値以下であることが確認できた土砂について飯田市に運んでいただいている。そういった土砂の安全性については、日々確認をしている。

(熊岡委員)

今地図を見ていて、主に一部県道を走られるということですが、常時走るということになると、そこを通勤に使う方は違う道を通る可能性が出てくる。そうすると、他のところも混むという現象が出てくると思う。秋を中心に、果樹の産地ということで選果場なども稼働するため、搬入・搬出の際に道が混んでいると色々な支障が出てくると思う。そのための対策をお考えいただいているのかお聞きしたい。

(飯田市/細田部長)

一般車両の渋滞対策としては、朝の通勤時間帯に極力配慮した運搬をするため、相談させていた  
だきながら進めている。町、地域のイベントなどは勿論配慮し、時期的に必要な配慮については、  
農協様とお話しさせていただく中で検討させていただきたい。

(田中委員)

大きなダンプが国道や道路を通ることにより、民家が近くにあると、振動と騒音で健康被害など  
が考えられると思うが、その様な症状が出た場合はどちらにお話しを持っていけばよいか。また、  
保証は考えられているのか伺いたい。

(飯田市/細田部長)

運転手の方にも、騒音・振動がない様に、なるべくカーブ等では速度を落とすことなどお願いし  
ている。実際にダンプが運行して、どの程度の騒音・振動があるか測定することも予定している。  
その測定結果が環境基準を満たさない様なことがあれば、きちんと対応させていただきたい。実際  
に測定し確認させてもらいたい。

(田中委員)

実際に始まった場合に、その症状が出たり赤ちゃんが昼間寝ていても寝られなくなったり、その  
様な話しが出た場合は松川町の方にお話しを持っていけばよいかお聞きしたい。

(松川町/小木曾課長)

そのようにお願いします。

(松下正博委員)

利用する残土の所定の硬さへの転圧は、掘削すりだけかそれとも山砂等を混ぜて行っているのか  
お聞きしたい。

(飯田市/細田部長)

他の土と混ぜることはせず、掘削すりだけで締め固めている。また、しっかり固まっているか検  
査をしている。

(喬木村/井澤課長)

飯田市と同様に、基本的に同じ土質のものを運ぶことを考えている。

《飯田市、喬木村 退席》

(3) 前河原道路新設事業について

〔町/小沢課長より説明〕

〔質疑応答〕

(松下正博委員)

地域指定、法手続きの関係、国道との協議などの必要があるのかお聞きしたい。

(町/小沢課長)

一部急傾斜地であり、急傾斜の関係の調整が必要。また、計画では国道に接続したいと考えてい  
るため、飯田建設事務所と公安委員会に交差点協議を行っていきたい。この2点に関しては、今後  
発注予定の委託の中に組み入れていきたい。

(米山義盛委員)

町道として造れば他の工事ができなくなることが懸念されるが、いかがでしょうか。

(町/小沢課長)

JR東海に助けて頂かなければできない事業だと考えている。JRには発生土を盛る形で道路面を造っていただき、その上に町が道を造ることで前河原の段まで降ろしたいと考えている。これは地元の皆さんとの約束ごとであったが、これまでできなかった状況であり、今回JR東海と一緒に工事を進めさせていただきたい。

(米山義盛委員)

JR東海との協定の内容が分からなかったためお聞きした。

(町/小沢課長)

JR東海との協定に関しては、この道路を最後まで造る内容で結ばせていただき、費用負担については、盛土に関してはJR東海の負担、その上の道路に関しては町が計画実施する。

(4) 生田地区における発生土の活用について

①生東地区(丸ボッキ地籍)の発生土置き場候補地について

[町/佐々木係長より説明]

[質疑応答]

(清水副委員長)

町の説明に補足する。

平成25年5月から、県から町に発生土活用の照会があった。その後、平成25年10月に生東区から町に、丸ボッキ地籍、本洞地籍の情報提供があった。そのような中、平成26年5月に町から県にその情報を上げたと聞いている。また、同年10月に、生東区より新たにつつじ山の情報が上がられ、町より県へ伝えたと聞いている。その中で、発生土の活用先として情報が提供されており、平成26年11月21日に、生東区より町に発生土の受入れに関する要望書が提出されたと聞いている。生東区の事業目的としては県道22号線の改良、当地区の活性化事業の推進という目的とした中で、区の事業として、残土処分の処分地として丸ボッキ地籍、本洞地籍、つつじ山地籍を決定したと福与区は承知している。

生東区は、事業目的のために残土処分の受入れを希望するという内容に形が変わってきている。同日の平成26年11月21日ですが、生田地区の3区により、生田地区の活性化や地域の改善を要望する生田地区3区統一要望書を町へ提出している。これにより、前町長が、発生土の受入れは生田地区3区の合意と勘違いされた。従って、生東区から出された残土受入れのことが、3区が合意して出されたものと勘違いされ、これが町でも県においても生田3区の合意と捉えられてしまったという問題があった。

そういった中で、平成28年11月になり、福与区は、町の埋立て場所について、町の防災マップの土砂災害危険区域に指定されている場所だということ、また下流域に福与区があるということで、区民が大きな不安を感じることであり、残土受入れに対して反対を表明した。

その後の会議で、福与区からは生東区に対し、安全性や利活用などに対し質問をしているが、福与区が心配している内容について、しっかりとした説明がなかったという様に受け止めている。今後残土を受け入れる中で、平成30年1月に第1回目の3区の会議を行い、候補地の検討を行うことで決定。同年2月の2回目の会議の際に、3候補地の適否判断を3区合意で決めようということ、3区がその場所の適否判断をするという話になった。その様な中で、なかなか会議が進まず、同年11月の5回目の会議の際に、つつじ山地籍と本洞地籍について、生東区より取り下げの申し出があり、合意が3区の中でされた。丸ボッキ地籍については、適否の再検討をすることで合意されている。福与区としては、今まで話がうまく纏まらない中で丸ボッキ地籍をもう一度候補地として出して頂いたらどうかという話をしたところ、継続で丸ボッキ地籍を残すということになり、合意したところ。3区の合意をして行なっていく会議を、福与区としては遵守しましたが、なかなか会議がうまくいかず、今に至っている。

(宮下町長)

平成30年1月26日に、前町長より謝罪をさせていただいている。最初に生東区、福与区、部奈区の3区の合意として要望が出てきたと勘違いしたことにより、話が進まなくなってしまう、ご迷惑をおかけした。今ここまで延びてしまっているのは、一番最初のボタンのかけ違いだと思っている。それを踏まえ、その様なことが無い様に進めていきたいため、今後は町が主導して会議を行う話をさせていただいた。

(下澤委員)

話が立ち上がり、区長は私で4代目である。その間、内部でも相違等があり進行に支障をきたしていたことについて、大変申し訳なく思っている。

②他の候補地について

〔宮下町長より説明〕

〔質疑応答〕

(坂本委員)

募集の時期、いつまで、どのくらいまでなど計画があるか聞きたい。もし、仮に民間から出てこなかった場合はどうするのか伺いたい。

(宮下町長)

時期やいつまでにということははっきりとは考えていない。ご指摘のとおり、全然案が出てこなかった場合、何の意味があるのかという話にもなる。発生土をどこかで活用できないかという観点で、町でも適地について探していきたい。

(坂本委員)

民間だと場所や目的が決まっても、そこへ運搬するためには運搬道路のことなどあると思う。詳細に町が改良していく必要があると思うが、町の施設でも計画を議会が提案している箇所があると思うので、早急に利活用を進めていただきたい。

(宮下町長)

町としてはいくつも案が出てきた場合は、早く進められるところから進めていくという姿勢で進めていきたい。

[全体を通じて質疑応答]

(西條委員)

残土は莫大な量が出ると思うが、現在決定済みの残土の行き先は何%か教えていただきたい。

(JR東海/古谷担当部長)

発生土は、長野県全体で950万m<sup>3</sup>出てくる。今運搬している所は4、5箇所くらいで、まだ数字に表せられるほど大きくない。ただ、30箇所程度の候補地あるいは発生土を活用できる様な公共事業について、自治体の方、地元の方などと協議させていただいている。その協議先30箇所程度の土量は950万m<sup>3</sup>のうち8割がたの数量で協議を進めている。残り2割程は未協議であり、これから松川町の方で再募集されるとのことなので、もし候補地をいただければJRでもきちんと検討させていただきたい。

(西條委員)

それが理由で工事の遅れがない様に進めていただきたい。

(JR東海/古谷担当部長)

最初から950万㎡全ての行き先が決まっていなくて掘れないという訳ではないため、トンネルを掘りながら決めていく。行き先をできるだけ早く決められる様に努力したい。

(松下正博委員)

候補地として、まつかわ大橋の左岸側の低地に残土を持っていき、県道バイパスを結ぶという様な考えは成り立たないか。私の案ですが、そこへ残土を入れながらさらに県道バイパスを繋いでしまうというのはどうか。

(町/小沢課長)

県道バイパスについてはこれからも要望していくが、一旦まつかわ大橋に接続する計画を、県にお願いしている。量的には約5万㎡程かと思う。県でも考えてくれているので、このルートは検討していきたい。

(熊岡委員)

道ありきでなく残土ありきで道路のルートを変えているのではないかと思う。既に店が何軒かあるなど、利害が出てきてしまう。その辺りはどう考えているかお聞きしたい。

(長野県/折井課長)

県道改良は、地域の交通安全対策や渋滞対策のために行うものである。残土があるからそこに計画するという様には考えていない。上片桐地区の道路について、町からの要望を受けて県の方で設計等検討中である。

(宮下町長)

現道は真直ぐ行くと保育園、小学校があり、保護者の方からも道路が大きいため交差点が不安であるという話もいただいている中で、県にも要望している最中である。地域の皆様の安全への思いがスタートで始まっていることをご理解いただきたい。

(熊岡委員)

一番始めに上片桐バイパスが開いた時に、私達はバイパスを真っ直ぐインターの方へ延ばすという説明を聞いており、上片桐の皆さんはそれを信じています。それが今になって東へ振るという話になっている。それなら20年前の話を保証する様な方策、例えば選果場の用地の交渉をするなどを考えていただかないと、ただ5万㎡のための道を造って、簡単に進めてしまうのではないかという心配がある。

また、地元に対しての説明が全く無い。県はその様なやり方をするのか。私と同じ様な意見を持っている人はいると思う。地元の意見を聞いた上でルートを決めるのが筋ではないか。一方的に話が進んでしまうのはおかしいと思う。

(長野県/折井課長)

上片桐の飯島飯田線の本線のバイパスですが、松川インターへそのまま延伸をというご要望は町からも頂いているが、費用が多くなるということ等がある。今日いただいたご意見については、お受け止めさせていただく。残土を使った道路の計画は、地域の皆さん、地権者の皆さんへはしっかり説明しご了解いただかないと進められない。まだ、地区への説明ができておらず大変申し訳ないが、今後行っていきたい。

(熊岡委員)

町から、こういうルートになるという文書を隣組の回覧で出されている。それでは決定という風にとられてしまう。少なくとも、意見を聞いてもらえる機会を設けてもらいたい。

(町/小沢課長)

今までの状況では、このルートにということで事業が進んでいたのは事実である。地元の皆さんへの説明会については実施するということが県からは聞いていた。今現在は少しストップしているところであり、なおかつ安全な道路をお願いしたいというのは事実である。保育園、小学校があり、その先の清北の団地の皆さんにとって、大型車が通るたびに振動で夜も眠れないようなことも聞いている。また、以前の会議の際にも、上片桐の方より、バイパスの信号機からまつかわ大橋の方にぶつけるルートも検討してほしいといった意見も伺っている。上片桐区民は、もうこれ以上待てないというご意見も頂いている。そのような中、県と話を進める中で、一般道で飯島、駒ヶ根、伊那方面へリニア発生土を運搬する可能性もあり、その際ダンプが今のルートを激しく往来するとなると余計に今説明したようなことがあるため、安全確保をするためにこの様な計画を町の方から県へお願いした。

(熊岡委員)

説明会はあるのかお聞きしたい。

(町/小沢課長)

説明会を行う話は聞いているが、現在は測量と設計の段階でストップしている。

(長野県/折井課長)

説明会は、設計が進み次第、地元の皆さんを対象に行いたいと考えている。よろしく願いしたい。

以上